

● 生活基盤の維持確保と整備について

市議会代表
帰山 寿憲 議員



- その他の質問
- ・平成30年度予算について
 - ・観光施策について
 - ・産業施策について
 - ・教育施策について

代表質問

問 今回の大雪における災害対策本部設置および運営のあり方、水・燃料・交通等の確保を含めて生活基盤維持における課題と今後の方針を伺う。

答 2月5日の雪害対策室設置以降、計20回の会議を行い、会議以外の本部業務については総務課で行った。災害対策本部は災害の種類や規模に応じて適時適切な体制をとっていく。また、必要な資機材を備えておくこと、発災後速やかに本部機能を立ち上げることがいかに大切であるかということとを今後に活かしていきたい。

新たな水源の確保については、考えられる手法として、遅羽地区も含めた新たな井戸の掘削、浄土寺川ダムからの取水が考えられる。しかし、これらは単年度で対応できるものではなく、実用までには複数年必要となるが、早期に検討を進めるために必要な経費を今後議会に諮りながら計上させていきたい。

燃料については、燃料の輸送ルートを複数確保することを含め、石油元売り会社と直接連携することを検討したい。電気自動車はエコで注目されているが、今回のようにガソリンが不足する事態に備えるという観点でも有効だと考え、次の公用車の更新期に電気自動車の採用を検討する。

中部縦貫自動車道の長期不通について、福井河川国道事務所から想定以上の降雪だったとの説明があったが、特別豪雪地帯である奥越を走る中部縦貫自動車道が甘い想定をしていることでは話にならず、今後の対応について厳しく福井河川国道事務所に指摘していく。

立志会代表
田中三津彦 議員



● 平成30年度予算について

・市職員の時間外勤務手当 ・ふるさと納税拡大のための施策

- その他の質問
- ・観光の産業化推進策について
 - ・観光施策推進の必要性について
 - ・観光の産業化推進策について
 - ・観光施策推進の必要性について
 - ・観光の産業化推進策について
 - ・観光施策推進の必要性について
 - ・観光の産業化推進策について
 - ・観光施策推進の必要性について

代表質問

問 時間外勤務手当について、これまで指摘した問題点が改善されたことと認識するが、予算計上要領を説明されたい。また、今後は年度途中での2千万円規模の追加補正は、基本的にないと考えてよいか。

答 平成30年度の時間外勤務手当は、当該年度の所要見込額を計上すべきであるとの考え方に基つき、職員給与額の8・0%を基本に計上した。これは、過去5年間の時間外勤務手当額の実績が、給与費額の8%から9%で推移していることから、一番低い数値を採用し計上した。

執行にあたっては、予算の範囲内で所屬長が時間外勤務を命令することで行うものであり、災害などの特殊事情によるものを除いて年度途中の補正は予定していない。なお、厳しい財政状況や納税者の視点に立ち返り、一層の事務の効率化を図り、働き方改革の先頭に立ち、引き続き時間外勤務の削減に取り組む。

問 観光を軸としたまちづくりには、ふるさと納税の活用、拡大が必要。

答 勝山市では平成28年度より、返礼品について選択方式を導入しているが、勝山市の特産品は人気が高い肉類・海産物などが多く、他自治体と比較して返礼品の種類が少ない。新年度に向けて市内事業者の方々に事業のPRを行い、新たな返礼品の確保に努め、選択可能な返礼品の数を増やしていく。特に事業者と連携して宿泊券や食事券、イベント参加券など旅行商品の充実を図っていく。

返礼品として最も人気の高い米について、増量や、米を一度に送らず少量を複数回に分けての発送、季節に合わせた旬の農産物や酒などを組み合わせるなど、頒布会方式の導入など、提供方法に工夫を凝らす。また、リピーターの確保のため、何度も寄附をいただいた方に、お得感や特別感を感じていただけるような取り組みも考えていく。